



Report 3 手づくりの「午(うま)」作品がズラリ 食彩館しょうばらゆめさくらで里山の干支展

その年の干支にちなんだ手作り作品を展示する「手仕事・里山の干支展」が12月13日～1月31日までの期間、食彩館しょうばらゆめさくらで開催されました。

施設内に設けられた展示ブースには、市民などが手作りで、今年の干支「午」をモチーフにした作品がズラリと並び、来館者の目を楽しませていました。

この「手仕事シリーズ」は好評で、2月15日からは「里山のお雛様展」、3月14日からは「里山のおぼろ月と福朗展」が開催される予定です。

▶午作品がズラリと並び



Report 4 オープンから10年目で入湯者20万人達成 たかの温泉神之瀬の湯



▲八谷センター長(右端)から記念品を受け取り喜ぶ国富さんご家族

平成16年10月の開館から10年目となる『たかの温泉神之瀬の湯』が1月13日、利用者数20万人を達成し、記念セレモニーが行われました。

大鬼谷オートキャンプ場の帰りに、家族5人で初めて立ち寄り20万人目となった広島市の国富真規さんに、施設指定管理者である庄原市社会福祉協議会高野地域センターの八谷誠治センター長などから、記念品として花束や高野の特産品などが贈られました。

国富さんは「すごびっくりしたが、とてもうれしい。松江道ができ高野が近くなったのでぜひまた遊びに来たい」と喜んでいました。

昨年には松江自動車道開通や高野を舞台とした漫画『君のいる町』のテレビアニメ化などがあり、このところ市外や県外からの利用者も増えてきています。

Report 5 不登校やひきこもりに温かい支援を グッバイひきこもり一般講座

グッバイひきこもり一般講座が11月27日、市役所東城支所で開催され、55人が参加しました。

この講座は、平成21年から庄原市社会福祉協議会が中心となり、毎年1回講演会を開催しています。今年は、広島ひきこもり相談支援センターの臨床心理士山田晃靖さんが、不登校とひきこもりの支援についての講演。不登校・ひきこもりの要因や家族支援のシステム、当事者に対する有効なコミュニケーション、相談機関への促し方などについて、わかりやすく講演しました。

また、東城地域で活動する『ひきこもり家族の会“つばさ”』の活動紹介が行われ、「不登校やひきこもりの問題で困ったら、家族だけで抱え込まずに、勇気を出して相談してほしい」と呼びかけていました。

“つばさ”は、毎月第3金曜10時～11時30分、東城ふれあいセンターで活動しています。活動や内容など詳しくは、庄原市社会福祉協議会東城地域センター(☎08477-2-0488)まで。



▲講演した山田さん



▲ひきこもりの会“つばさ”活動紹介

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1 地域の子どもは、地域で守り、地域で育てる 山内放課後子ども教室の取り組みが評価

山内自治振興区は昨年12月、地域による学校支援活動が優れていると評価され、文部科学大臣表彰を受けました。

同振興区は、地域の子どもは地域で守り、地域で育てることを目的に、放課後や夏休みなどに小学生が安心して安全に活動できる場として、山内自治振興センターで「山内放課後子ども教室」を開設しています。

活動は、安心、安全に過ごす場を提供するだけでなく、学習コーディネーターを中心に15人の指導員がかかわり、地域住民の参画を得ながら、勉強やスポーツ、自然体験活動や昔の遊び、地域行事を通じた地域住民との交流活動など、多様な活動を実施しています。

参加児童の保護者からは「基本的な生活習慣が身に付いた」などの感想も寄せられており、家庭では経験できないさまざまな体験活動が、子どもたちの成長につながっています。



▲12月に開催された、しめ縄作り体験の様子

Report 2 比和そばを満喫 そば打ち講習

旬の食育健康講座として「そば打ち講習」が12月5日、12日、25日の3日間、比和健康増進施設あけぼの荘で開催され、地域住民など延べ21人が参加しました。

この講座は、地元食材を使いながら安全で健康的な食に興味をもってもらうと、旬の比和産のそば粉を使ってそば打ちを行いました。

「比和そば」のそば粉は、水と混ぜた際に粘り気が出やすく、つなぎを入れない十割そばを打つことが出来ます。参加者は、地元のそば打ち名人から「水回し」、「菊ねり」、「へそ出し」などの手順を実演しながら指導してもらった後、水加減や生地を伸ばすときの力加減に悪戦苦闘しながらも各自そばを完成させました。

そば打ち体験後は、名人から“しゃぶしゃぶ風”にそばを食べる方法を伝授してもらい、「ほかの地域のそばよりもコシがあって

おいしい」「なかなか名人のように打てないけど、打ったそばは家に持って帰って、家族で食べたい」などと話しながら、地元特産のそばに舌鼓を打ちました。



▲そば打ちの実演



Report 6

神楽鑑賞で一年の福を 戸山会新春神楽公演会

常定神楽継承団体戸山会による新春神楽公演が1月2日、口和老人福祉センターで行われ、約50人が伝



統の舞を鑑賞しました。

戸山会は、口和町常定に伝わる神楽の継承団体として約22年前に設立。口和中学校神楽同好会の育成・指導役として活動しています。新春公演は毎年の恒例の行事として定着し、今回で15回目となります。

当日は、清めの舞、猿多彦の能、竹夜叉姫、恵比寿舞の4演目が披露。恵比寿舞で定番となっている福餅まきの場面になると、観客は新年のご利益を得たいとばかりに総立ちで福餅に手を伸ばしていました。

戸山会会長の森末博雄さんは「これからも、口和の地に根付いていた文化の灯をともし続けて行くため、今後も公演会を続けていきたい」と話していました。

◀福餅まき

Report 7

伝統の和紙作りに挑戦 総領中生徒が紙すきを体験

総領中学校3年生13人が12月16日、総領高齢者能力活用センターで紙すきを体験しました。

この体験学習は、総領地域の文化を学ぶ目的で毎年行われ、地域の協力を得ながら23年続く伝統ある行事です。

生徒たちは事前に、和紙の原材料となるミツマタやコウソを刈り取るところから始め、それを蒸して皮をはぎ取るなど14の工程を済ませこの日に臨みました。

この日は、町内に住む秋山和子さんと大下芳枝さんから指導を受けながら、初めての紙すきを体験。最初は戸惑っていた生徒も、2人の丁寧な指導で自分だけのオリジナル和紙を完成させました。

完成した和紙は、生徒たち自身の卒業証書として使用されます。



▲紙すきのコツを学ぶ生徒

Report 8

地域の達人から伝統の技を学ぶ 西城小学校がしめ縄づくり体験活動

西城小学校の5年生23人が12月17日、しめ縄づくりを体験しました。

同校では、農作業を通じた地域住民とのふれあいを通じて、伝統を知ったり、技術を習得したり、自然から得たものを活用する方法などを学んでほしいと、毎年地域と協力して行われています。

この日は、地域の若佐勝春さん、田澤信雄さん、伊藤賀純さんが指導。しめ縄を作るのは初めてという児童がほとんどで、なわをなう動作に悪戦苦闘。指導者が見せる手さばきに感嘆の声を上げていました。

児童の一人、丹波慶美さんは「わらをなったり、ひねったりするのはとても力があるので苦労した。橙や裏白、紙垂を飾り付けるのが楽しかった」とにっこり。児童たちは出来上がったしめ縄を「どこに飾ろう

かな」と満足げに眺めていました。

担任の平岡俊哉教諭は「児童みんな意欲を持って取り組めた。米づくりの延長上にこういったものがあることを認識してくれたと思う」と話していました。



▲わらのない方を教わる児童